

地域支援センター「しせい」

福島県立相馬支援学校地域支援センター通信 No.3 発行:令和3年9月16日/文責:飯田 里佳子

夏休みが終わり、涼しさを感じる季節になってきました。休み中に気になったお子さんの様子や、日々の生活での困りごと、知りたい情報など、何かありましたらお気軽にご相談ください。



今回のテーマは…

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」について

前回の地域支援センター通信は、「合理的配慮」がテーマでした。その中で触れていた「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の概要、また一部改正について、ご紹介したいと思います。

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」

※「障害者差別解消法」と言われることもあります。上記が正式名称です。

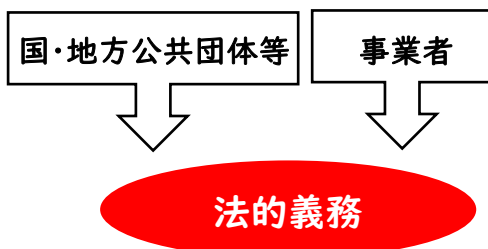
目的

全ての国民が、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進すること

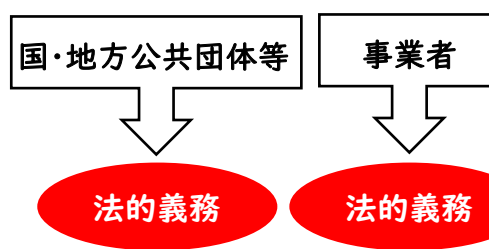
概要

「障害者基本法」第4条(差別の禁止)を具体化しています。

不当な差別的取扱いの禁止



合理的配慮の提供



【Point】:努力義務から義務へ

事業者による合理的配慮の提供は、これまで努力義務でしたが、令和3年6月4日に一部改正された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」において義務化されました。



つまり、障がいによる困難さに対する配慮について、本人や保護者から申し出があった際、十分な検討をせずに、「この子だけ、特別な配慮はできません。」と合理的配慮の提供を否定する対応は、差別に当たります。

<参考>

■内閣府 HP→ <https://www8.cao.go.jp/shougai/index.html>

■小・中学校、高等学校におけるインクルーシブ教育システム推進のためのコーディネートハンドブック(福島県特別支援教育センター)

※福島県では「障害」を「障がい」と表記していますが、法的な文書等については「障害」のまま引用しています。

校内の取り組み



オンラインにて、特別支援教育研修会・研究協議会を実施しました！

7月29日(木)の午前中に「地域支援センター特別支援教育研修会」、午後に「相馬地方特別支援教育研究会第二次研究協議会」を開催し、それぞれのテーマについて講師の先生からご講演いただきました。本校の教職員、相馬地方以外も含めた80名程の小・中・高等学校の先生方にご参加いただきました。

特別支援教育研修会

「読み書きの困難とICTによる支援の実際」

帝京大学教育学部初等教育学科教授

金森 克浩 氏

学校でのICT活用にかかわる国の施策として、1人1台端末環境の整備等が進んでいることと併せ、ICT環境が手段ではなく目的にならないよう意識することの必要性をお話いただきました。合理的配慮についても改めて考えさせられ、子ども達がより最適な学びをするためのICT活用の実践を積んでいきたいと感じました。

相特支研第二次研究協議会

「通常学級における学習につまずきのある子どもへの『多層指導モデル』による指導」

西東京市立住吉小学校 主任教諭

栗原 光世 氏

異なる学力層の児童が在籍する通常の学級で、児童が学習につまずく前に指導・支援を提供していくことを目指して開発された「多層指導モデル MIM」のお話をいただきました。アセスメントと指導法について、演習を交えながら学ぶことができました。アセスメントと効果的な指導の両輪を働かせ、分かりやすい指導を行っていきたいです。

～講演を聞いた方からの声～

ただICTを使うのではなく、子どもたちの理解の促進、豊かな表現へとつなげていけるように、目的をもつことが大切だと思った。

ICTを活用しようとして失敗することがあったが、代替手段を用意したり、予備実験をしたり、仲間を作ったりしながらやってみたいと思えた。

「もっと自分らしく学べる社会へ」のビデオを見て、教師の理解や配慮等の有無で子どもの人生が変わる、子どもたちの学びやすい環境を整えることも教師の役目だと改めて感じた。

発達障がいのある子どもにとってのICT活用は、学ぶためだけでなく、自分を表現するという点においても有効なものだと分かった。

本当は困っていない子どもを困らせている教育や社会の現実が分かった。本当に困っている子どもに、自分に合った学びを選択させることができるような教育現場をつくっていかなければいけないと感じた。

つまずきのある子により丁寧な指導を行いがちになってしまうが、1stステージから「どの子にも分かる効果的な丁寧な指導」を行うことが大切だと実感した。

MIMを初めて知り、リーディングスキルと通じるころがあると感じた。言葉をどう獲得し、使えるようになるのか悩んでいるが、立ち止まって繰り返し触れさせることも大切なのだと分かった。

～教材紹介～

多層指導モデル MIM「読みのアセスメント・指導パッケージ」は本校地域支援センター「しせい」にもあります！貸し出し可能です！



お気軽にご相談ください。

専用電話 080—7216—7351 (飯田里佳子) 学校電話 0244—67—1515